

Wakayama University Tourism Update

Semiannual Newsletter of Tourism Education & Practice

WTU Spring/Summer 2018



GIP (Global Intensive Project) に新しいプログラムが登場！
(関連記事：5、6 ページ)

Contents ー目次ー

1. Reports ー和歌山大学観光学部生の国際 / 地域活動報告を紹介ー
2. Topics ー過去のイベントとニュースー
3. Future Events ー今後のイベント紹介ー

- 坂本 直斗さん (学部 4 年生 / 和歌山県立新宮高等学校出身)
- 永野 杏奈さん (学部 4 年生 / 和歌山県立日高高等学校出身)
- 藤森 美月さん (学部 4 年生 / 長野県諏訪二葉高等学校出身)
- 吉村 実佳さん (学部 4 年生 / 私立開智高等学校出身)
- 長野 慎一さん (大学院観光学研究科 博士前期課程 (短期履修コース) 2017 年度修了)

参加イベント：「ワールドマスターズゲームズ 2021 関西

インターカレッジ・コンペティション 2017」

(最優秀賞・スポーツ庁長官賞 受賞)



今回私たちは和歌山大学観光学部伊藤ゼミとしてワールドマスターズゲームズ 2021 関西のインターカレッジ・コンペティション (以降インカレ) に参加させていただきました。

このインカレはワールドマスターズゲームズ 2021 関西 (以降 WMG2021) が、関西のみならず日本全体にスポーツ・文化・産業など様々な分野の効果を生み出す大会として最大限の成果を生み出せるよう、全国の大学から新鮮で柔軟なアイデアを提案することを企画趣旨に掲げています。また、この取り組みは今年で 4

回目であり、組織委員会の取り組みのみならず、各競技の開催都市においても地域に根ざした大会づくりとともに、各地で最大限のレガシーを生み出すため大学生の研究活動に実務での課題解決という動機付けを与えながら次世代を支える若者を育成することにも意義があります。

今回のインカレは計 10 大学 21 チームが参加しており、その中で私たちのチームは最優秀賞・スポーツ庁長官賞をいただくことができました。

私たちがこのインカレでプレゼンしたのは『高校生観光案内プロジェクト：レガシー創出に向けた挑戦』という題名で、内容は和歌山県の高校生に和歌山県の観光企画、案内のボランティアをやってもらうことで和歌山県の抱える人口流出、WMG2021 が抱えるボランティアレガシー、海外からの参加者が抱える観光に関する問題を解決しようというものでした。このプレゼンテーションをする上で力を入れたことは実現性と論理性を持たせるプレゼンテーションにすることです。そうするために、過去のデータを用いたり、実現すると仮定し、スケジュールや主催など仮説を立てたりしました。

今回、このインカレに出場し、他の大学生チームから自分たちの学んでいる分野とは違った分野からの発想の豊かさや柔軟性、訴求力を勉強させていただきました。全てのチームが異なる発想で大会の振興策を考え、未来に向けての提案をしていました。また、学生が普段学んでいることを実現性を持ってプレゼンテーションすることで、インプットだけで終わることなくアウトプットして次世代につなげるきっかけを頂けたと考えます。

そして最後に、このような貴重な機会を与えてくださり、支えて下さった皆様に、本当に感謝しております。この経験をもとにさらに普段の学びをインプットすることだけで終わらず、アイデアとしてアウトプットすることで還元していきたいと思ひます。



■ 西本 和真さん（学部2年生／大阪市立扇町総合高等学校出身）

参加イベント：PATA(Pacific Asia Travel Association) 和歌山大学学生支部 一般社団法人 田辺市熊野ツーリズムビューロー 視察



PATA 和歌山大学学生支部は、和歌山県内での観光の取り組みについて学ぶため、2018年2月14日に和歌山県田辺市にある一般社団法人田辺市熊野ツーリズムビューローを訪問しました。田辺市をはじめ、世界遺産である「紀伊山地の霊場と参詣道」の観光をDMO(Destination Management Organization)として支えている同団体の事務局長さんから、設立までの経緯や現在の取り組みに至るまで、順を追ってご説明頂き、最後には質疑応答、意見交換を行いました。

熊野古道が通過型の観光地であったことに悔しさを感じていたということ、世界遺産を保護するには地域が衰えてはいけないということ、たくさんの人に来てもらうためにターゲットやテーマを決め、必要な情報を多言語で発信してきたこと、翻訳や英会話に苦労したこと、大手旅行会社ができないような細かなサービスを提供するために自分達でシステムを構築し対応してきたこと等、同団体の熊野古道に対する様々な活動や思い、魅力についてたくさんお話を聞かせて頂きました。

今回の訪問では、メンバー各々から多くの質問をすることができ、それらのひとつひとつに事務局長さんからご回答いただく中で、明確な目標やビジョンを立てることが大切であることを学び、和歌山県には巡礼道を介してスペイン・ガリシア州との友好関係があることや、熊野古道における旅館の後継ぎ問題があること等、これからのPATA 和歌山大学学生支部として活動していく上でのアドバイスやヒントを頂きました。今後の活動や方針について改めて考える機会になったと思います。



参加イベント：日中植林植樹事業・中国大学生友好交流訪日団との学生交流会



これを読まれている方は中国人についてどんなイメージを持っていますか？近年急速に訪日中国人観光客が増加し、そのマナーの悪さが時折ニュースになったり、政治的問題から反日感情を持っているのではないかという印象があったり、あまり好意的に捉えられないことが多いと思います。事実、自分自身も少なからずそう思っていました。しかし、昨年12月1日に行われた「日中植林植樹事業・中国大学生友好交流訪日団との交流会」を通じ、実際に中国の大学生と交流することによって、そうではないという

ことを知ることが出来ました。その時のことについて報告したいと思います。

私たちはPATA学生支部として、外務省の植林事業で中国の山東省から訪れた学生と和歌山大学で交流することになりました。このイベントは、佐野准教授による講義、学生主導で行う交流会、県庁主催の懇親会の三つのパートに分けられます。特に私たちが中心となった日中学生間の交流会では、PATA学生支部の企画部が主に活動を取りまとめました。二つの教室に分かれて日本人学生と中国人学生を混合でグループを作り、その中でアイスブレイクやゲーム、ディスカッションを行いました。もちろんお互いの国の言葉を話すことはできなかったため英語を主に使用してコミュニケーションをとりました。

最初はお互い緊張した様子でしたが、アイスブレイクやゲームを通じて打ち解けることが出来ました。ディスカッションでは4つの社会問題について話し合ってもらいました。驚いたのは中国人学生の多くが日本の社会問題や中国の世界遺産などについて関心があったことです。日本に対するイメージも『君の名は。』や『名探偵コナン』などのポップカルチャーのイメージが強いそうです。

交流会が終わったのち、GENKI食堂で食事を楽しみました。ディスカッションで打ち解けたこともあり、和やかな雰囲気でお互いの文化の違いや学生生活についておしゃべりしていたのが印象的で、やはり日本の大学生と変わらず、加工アプリを使っての自撮りや連絡先交換など若者は万国共通で変わらないのだなと感じました。

今回のイベントでPATAメンバー内の中国人に対する意識も変わったと思います。これから日本のインバウンド促進のためには中国人への理解が重要です。自分自身、実際に面と向かって話をすることでお互いを理解することができるかと改めて気づくことができました。これからもPATAメンバー一同、海外の学生との交流を機に異文化理解を意欲的に深めていきたいです。ありがとうございました！



■ 本村 優衣さん（学部2年生／佐賀学園高等学校出身）

参加プログラム：GIP（Global Intensive Project） ～ Cebu, Philippines

Global Learning Activity



春休みの1か月間、フィリピンのセブ島へ短期留学しました。新しいGIPのプログラムで、1年生7人、2年生2人の計9名が1期生として参加しました。Pacific Tree International Language Academyという語学学校へ通い、英語力の強化ができるプログラムです。

何と言ってもセブ島留学の良い点は、1対1の授業に力を入れているところだと思います。初日にReading・Listening・Writing・Speakingの4つのテストを受け、その結果をもとに担当の先生や教科書が決まるため、自分の弱点に合わせた授業を受けることができ

ます。1日の半分が1対1の授業で、先生と会話をしながら勉強でき、どんどん英語がわかるようになりました。先生方はとても優しくて明るい方ばかりで、授業がとても楽しかったです。また、困ったときには日本人スタッフの方がすぐに対応して下さり、快適な学校生活を送ることができました。

休日には学校のアクティビティに参加したり、自分たちで観光スポットやショッピングモールに行ったりしました。学校のアクティビティは豊富で、私たちはアイランドホッピングやパパキッツ、ジンベエザメウォッチングに参加しました。シュノーケリングや釣りをしたり、写真を撮ったりしてとても楽しかったです。また、今まで水槽の中でしか見たことのなかったジンベエザメと泳ぐことができ、とても感動しました。学校の先生と一緒に行ってくださったので、英語を話す機会が増やせたことはもちろん、安全面でも安心してアクティビティに参加することができました。

フィリピンは発展途上にある国で、整備がされていないところも多く、日本より不便に感じた点もいくつかありましたが、同じアジア圏にある国としてとても親しみやすい国でした。現地の方はとても温かく、気軽に挨拶をしてくれて、日本が大好きだという人にも出会いました。

1カ月は長いようで短く、毎日が充実していました。毎日朝から夕方まで授業で、きついと思う日もありましたが、行く前は英語に自信のなかった私が、確実に成長したと実感できました。英語を強化したい人にはぴったりの場所だと思います。本当に参加してよかったです。



■ 泉 妃名子さん (学部3年生 / 近畿大学附属新宮高等学校出身)

参加プログラム：GIP (Global Intensive Project) ～ Chiang Mai & Chiang Rai, Thailand
Global Learning Advanced



私たちは今回、Community Based Tourism(CBT) 学習プログラムに参加し、タイのチェンマイ及びチェンライに10日間滞在しました。チェンマイ、チェンライはタイの北部にある人気の観光スポットであり、丘陵地が広がり、多数の民族が暮らす地域です。このプログラムでは、村でのホームステイや現地大学生との交流を通して、その村での生活や異なる文化を体験することができます。私がこのプログラムに参加しようと思ったきっかけは、友達に誘ってもらったことと、Amnaj先生のCommunity Based Tourismの授業を受講

し、座学だけでは分からないことが多く、実際に現地を見てみたいと思ったからです。

このプログラムの特徴の1つとして、現地の大学生がバディとなり一人一人についてくれます。バディとなる大学生は、観光経営やホテル経営などを勉強している学生です。同世代のタイの学生と普段の学生生活の話聞くのが興味深く面白かったです。また、バディとの会話は英語でした。お互いに英語圏の出身ではないので、間違いを気にせず、恥ずかしみなく英語を話せたのはよかったです。



タイの村での生活は、普段の私の生活と違うことばかりで、象に乗ったり、お茶摘みをしたり、貴重な体験を沢山させてもらったのですが、村でのホームステイは私にとって忘れられない体験となりました。ホームステイをした2か所の村のうち1つは、モン族という民族が住んでいる村です。モン族は、お湯を使うという習慣がないようで、その村での滞在中はお水でお風呂に入りました。正直、環境についていけず、つらいと思うこともあったけれど、先生や、一緒に行った友達のおかげで楽しく10日間を過ごすことができました。

このプログラムに参加して、世界には様々な民族がいて、それぞれ自分たちの文化や宗教を大切にしているということがよく分かりました。これからも語学をもっと勉強し、いろんな世界を見ていきたいと強く思う良いきっかけとなりました。



■ 武輪 日菜さん (学部2年生 / 大阪府立住吉高等学校出身)

参加プログラム：地域インターンシップ Local Internship Program (LIP)

「和歌山公園動物園 (通称：お城の動物園) の地域資源としての
観光活用 ～和歌山公園動物園の今後とリニューアルの検討～
(和歌山県和歌山市)



私たち動物園 LIP は、和歌山城の敷地内にある動物園、通称“お城の動物園”をフィールドに活動しています。メンバーは動物好きから、和歌山出身の人まで様々で、みんなで楽しく活動しています！まず動物園へ実際に数回訪れて、園内を見学、飼育員さんからお話を伺いました。夏休みには曜日や時間帯によってどのようなお客様が訪れるのか、来園者調査も行いました。更に、秋には動物園で毎年行われているイベントのお手伝いもさせていただきました。その後、各々が感じた動物園の現状をみんなで話し合いました。そこで、来園者が動物に食べ物を与えるので困っているという飼育員さんの声と、どの動物がどこにいるのか分かりにくいという私たちの意見から、今年度は園内看板の製作に取り組むことにしました。製作した看板の種類は、来園者へ「動物に餌をあげないで」と注意喚起するものと、園内地図の2種類です。来園者調査によって、外国人観光客が増加しているということが判明したので、注意喚起のものは日本語、英語、中国語、韓国語の4か国語で記載することにしました。看板のデザイン等を考え、買い出しをして、作業に取り掛かり始めたのが12月で、週に1回しか活動できないため、学期中には終わらず、春休みもみんなで集まって作業することになりました。みんな、それぞれ個性のあるメンバーなので、園内にいる動物の絵もすごくリアリティのあるものから、デフォルメされたものまで、見ていて楽しい看板に仕上がりました。何とか看板が完成したのが3月上旬、かなり遅くなってしまいましたが、実際に動物園に納品しに行くと、飼育員さんとても喜んでくださり、看板の取り付けも行ってくださいました。みなさんの感想を聞いていると大変だったけどやって良かったなと思いました。これから、たくさんのお客様に私たちの作った看板を見て、よりお城の動物園を楽しんで帰っていただければと思います。

1年間だけの他に比べれば期間の短いLIPですが、本当にみんなで大いあいしながら楽しく活動しているLIPです！終わってしまうのがすごく寂しいですが、何十年後かに自分たちが訪れて、まだ看板が使われていたら嬉しいなと思います！



■ 飯嶋 那月さん（学部2年生／兵庫県立川西緑台高等学校出身）

田尾 日奈子さん（学部2年生／広島市立舟入高等学校出身）

参加プログラム：地域インターンシップ Local Internship Program (LIP)

「地域で働く人の魅力を子どもたちに伝える」（和歌山県有田市）



2018年3月25日（日）、有田市箕島の本町商店街にある地域交流カフェ AGALA において、LIP 参加学生主催のイベント「箕島っ子集会 ～みのしまきまき！みんなで巻きずしづくり体験～」が開催されました。イベントでは、私たちがお寿司の歴史を有田市との関わりからお話をしたあと、箕島でお寿司の販売をされている方にご指導をいただき、参加者たちが巻き寿司づくり体験をしました。参加してくださった近隣の箕島小学校に通う児童とその保護者のみなさんは（計19名）、高野豆腐や漬物など和歌山ならではの食材を使った巻き寿司を美味しく頬張っておられました。

今回のイベントは、大学生主催ということでしたが、社会福祉法人有田市社会福祉協議会様、一般社団法人大地様、そして巻き寿司づくりの指導をしてくださった北畑商店様など、たくさんの方々のサポートにより実現したものです。今後も、地域のいろいろな方と協力しながら、さまざまな世代の人が交流し、笑顔になるようなまちづくりのお手伝いできればと思っています。

■ 福島 絵理さん (学部4年生/帝塚山学院泉ヶ丘高等学校出身)

参加プログラム：地域インターンシップ Local Internship Program (LIP)

「地域資源を活用した“おどろきと感動”の地域づくり」(和歌山県上富田町)



私たちは、上富田町市ノ瀬地区で地域の方々と共に約1年半地域づくりに取り組んできました。LIPになる前の初めの半年は、カメラを片手に市ノ瀬地区を歩き回り魅力を発見するところからスタートし、意見地図づくりや地域資源地図づくりワークショップを行いました。学生が作成した地図と地域住民の皆さんが作成した地図を比較してみると、共通点や相違点などお互いに発見があり楽しかったです。そして、それらをもとに市ノ瀬地区の資源を活用した地域活性化事業のアイデアを出し合いました。このときは、私たちも各自でアイデアを出させていただき、地域づくりに参加していることが実感できたのでやり甲斐を感じられました。そして浮かび上

がったアイデアにおいて、難易度や期間、役割分担について話し合い実行計画表を作成した結果、実際に取り組むこととなったのが「花を咲かせて地域づくり」と「市ノ瀬ゴマせんべいづくり」という事業です。前者では、耕作放棄地などを活用して数種類の花を植栽し、開花期のイベント開催や、アサギマダラという蝶が飛来する里としてのPRを目指しています。後者では、棚田米と市ノ瀬産のゴマ(新たに栽培)を使ったゴマせんべいの地域産品としての商品化を目標としています。

計画を実行に移すこととなった約1年前からはLIP上富田町市ノ瀬地区としての活動となり学生メンバーも3人から5人へと増えました。そして地域では「一瀬里山会」という住民団体も結成されました。この1年間は、ひまわり畑の雑草抜きやごまの種まき、市販のゴマを用いたゴマせんべいの試作と意見交換、地域イベントでの無料配布とアンケート調査などたくさんの活動を行いました。種まき作業などには、一瀬里山会以外にも子どもから高齢の方までたくさんの地域住民が参加してくださり、明るく楽しい雰囲気の活動となりました。ゴマせんべいは、一瀬里山会の女性を中心として何種類も試作し、新しい機械を取り入れてみるなど試行錯誤を繰り返している途中ですが、アンケート調査では前向きな意見も多数寄せられました。今後は、アンケート調査を活かした更なる改善とパッケージデザインなどの課題が残されていますが、無事に市ノ瀬産のゴマの栽培にも成功し「市ノ瀬ゴマせんべい」としての商品化は少しずつ近づいています。また、最終回にはみんなで作った郷土料理を食べた後に意見交換会を行い、ゴマの栽培量など次の1年の具体的な目標も決めました。

事業の計画段階から市ノ瀬地区の地域づくりに携わらせていただき、着実に前進しているのを感じられてとても嬉しく思います。住民の皆さんも回を重ねるごとに活動に対して積極的になられていて、いきいきとしています。私たちも毎回良い刺激をいただいていた。今年度のLIPとしての活動は終了しましたが、一緒に取り組んできた事業の成功を願うとともに、あたたかくて美しい市ノ瀬地区に今後も訪れたいです。



- 「平成 29 年度観光庁事業「産学連携による観光産業の中核人材育成・強化事業」
デスティネーションの観光産業を担う中核人材育成講座
～地域でがんばる観光産業の次世代リーダーを応援します～」
- ・「2017 年度 観光カリスマ講座」
- ・「地域活性化システム論 2017」 開催！



和歌山大学は平成 29 年度観光庁事業「産学連携による観光産業の中核人材育成・強化事業」に採択され、2017 年 9 月 26 日（火）～30 日（土）、（公財）日本ケアフィット共育機構大阪事務所において「デスティネーションの観光産業を担う中核人材育成講座～地域でがんばる観光産業の次世代リーダーを応援します～」を開講しました。

本学教員の他、観光庁参事官や実務経験者を講師陣にお迎えし、宿泊業、旅行業、観光協会、自治体、DMO など「観光地域づくり」に関わる多様な業界関係者 20 名が受講しました。グループディスカッションではテーマに分かれて積極的な意見を出し合い、各受講者が今後地域での実践活動や観光地経営のヒントを得ることができました。



また、和歌山大学キャンパスでは、2017 年 10 月から 2018 年 1 月にかけて「2017 年度観光カリスマ講座」を和歌山県との共催で開催しました。同講座では、各方面で活躍する「観光カリスマ」や成功モデルと評価されている観光地・観光ビジネスのキーパーソンを招聘しています。10 年目を迎える今年度は、全 5 回延べ 433 名が受講しました。和歌山県をはじめとする地域の観光振興とまちづくり再生の方向性を皆さまと共に探ります。



2017 年 11 月 25 日（土）、同じく和歌山大学キャンパスにて開催した「地域活性化システム論 2017」では、本学教員がそれぞれの研究分野「観光学」・「経営学」・「異文化コミュニケーション」・「農業」の視点での講義を行いました。学生、一般受講者 46 名が受講し、地域まちづくりの「テーマ」「方向性」の共有、地域住民参加への仕組み作りなど、受講生それぞれに課題を見出すことができました。

観光学部では、2018 年度もさまざまな公開講座を実施してまいります。

各講座のプログラムなどは下記 URL をご参照ください。

- ➡ デスティネーションの観光産業を担う中核人材育成講座
<http://www.wakayama-u.ac.jp/tourism/news/2017080700063/>
- ➡ 観光カリスマ講座
<http://www.wakayama-u.ac.jp/tourism/news/2017090100051/>
- ➡ 地域活性化システム論
<http://www.wakayama-u.ac.jp/tourism/news/2017090600087/>

上：平成 29 年度観光庁事業
「デスティネーションの観光産業を担う
中核人材育成講座」

中：2017 年度観光カリスマ講座

下：地域活性化システム論 2017

■「ミニ・オープンキャンパス in 東京」 & 観光教育研究セミナー in 東京 2017 Vol.2 「これからの観光と DMO」 開催！



上：ミニ・オープンキャンパス in 東京
「観光学部生・卒業生が語る「地域」と「世界」」
下：観光教育研究セミナー in 東京 2017 Vol.2
「これからの観光と DMO」

和歌山大学国際観光学研究センターおよび観光学部では、2018年12月2日(土)、フクラシア品川クリスタルスクエア(港南口)3階会議室G(東京都港区)を会場に、「ミニ・オープンキャンパス in 東京」、ならびに「観光教育研究セミナー in 東京 2017 Vol.2『これからの観光と DMO』(観光庁、和歌山大学観光学部同窓会「飛耀会」、和歌山大学経済学部同窓会「柑芦会」東京支部後援)」を開催しました。

「ミニ・オープンキャンパス」では、佐々木壮太郎教授による観光学部の概要説明に加え、「観光学生・卒業生が語る「地域」と「世界」と題して国内外で様々な活動を行っている現役学生・卒業生によるリレートークが行われ、本学部での学びの様子や、その学びが社会でどのように活かされているか等、学生・卒業生の目線で紹介されました。

また、「観光教育研究セミナー」では、本学の国際観光学研究センター(CTR)のDMO研究ユニットが中心となり、近年注目されているDMO(Destination Marketing and/or Management Organization)について、その歴史的な振り返りとともに、外国人観光客を呼び込む最新の実務など、行政・実務・学術の各分野からの話題提供とパネルディスカッションが行われました。「これからの観光」「これからの DMO」について、地域づくりの視点も交えた議論が行われ、学术界、産業界、関東圏在住の卒業生など各界からの出席者約60名が熱心に耳を傾けました。

➔ 当日のプログラムなどは下記 URL をご参照ください。
<http://www.wakayama-u.ac.jp/ctr/news/2017102600012/>

■ 2017 年度学位記・修了証書授与式が執り行われました！



2018年3月23日(金)、2017年度学位記・修了証書授与式が執り行われ、観光学部生115名、大学院観光学研究科博士前期課程11名が、学士・修士・博士の学位を取得し、新たなステージへと旅立ちました。

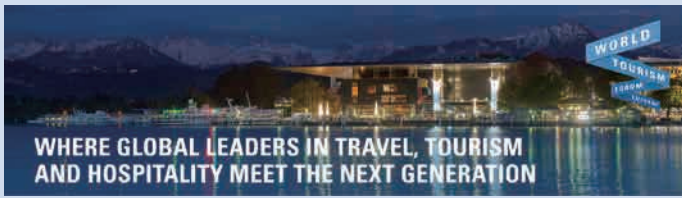
和歌山市民会館での授与式に続き、観光学部棟で学部成績優秀学生等表彰(学部成績優秀者表彰(最優秀学生賞:西端保美さん、優秀学生賞:黒木彩香さん、西山かおりさん)、卒業論文優秀表彰(最優秀賞:岡美里さん、優秀賞:八木悠太さん、森脇瑠美さん)、修士論文優秀表彰(最優秀賞:長野慎一さん、優秀賞:築田香織さん、田村修平さん)、

ピアサポート表彰(尾花宥輝さん、小島朋子さん、武内芽生さん、花里礼央真さん、安井優美さん、山田涼太さん、和田隼斗さん))が行われました。その後には、同窓会総会、謝恩会が開催され、お世話になった教職員や友人、後輩と記念撮影をするなど、学生生活最後のひと時を楽しんでいました。

卒業生・修了生の皆様のご活躍を期待しています。

Future Events —今後のイベント紹介—

■ スイスへ行こう！ WORLD TOURISM FORUM LUCERNE 2019 とパートナーシップ締結！



2018年1月、和歌山大学観光学部はスイスのWORLD TOURISM FORUM LUCERNE 2019（ワールド・ツーリズム・フォーラム・ルツェルン）とパートナーシップを結びました！

WORLD TOURISM FORUM LUCERNEとは、スイスの都市ルツェルンで2009年にスタートした観光についてのフォーラムです。各国の政府・民間企業・大学/研究機関・経済界の関係者が一堂に会し、各業界の【幹部役員】と【次世代を担う若手】、そして【将来を担う学生】という3世代が集結して『旅

行・観光産業の持続可能な将来』を共に構想し合うための場となっています。2年に一度開催され、前回2017年5月のフォーラムには、世界75ヶ国から約500人が参加しました。

現在、観光学で著名な全世界25大学がWORLD TOURISM FORUM LUCERNEのパートナー大学として加盟しており、和歌山大学は日本で唯一のパートナー大学です。

パートナー大学の役割は、観光学の将来を担う優秀な学生を育てて世界に送り出すこと。WORLD TOURISM FORUM LUCERNEでは、フォーラム開催に1年以上先駆けて『YOUNG TALENTS PROGRAMME』が実施されており、パートナー大学の学生たちが観光に関連する研究論文を応募します。選考で選ばれた学生は、スイスで行われるフォーラムに無料招待されるほか、学生向けのキャリアプランやメンタリングのプログラムに参加できます。現在、2019年5月のフォーラムに向けてまさに募集中です。応募に関する詳細は観光実践教育サポートオフィス（担当：柴本）までお問い合わせください。

このパートナーシップによる連携を通じて、本学部では、学生たちがグローバルな視点で観光について考え、地域の問題を世界と共有し、世界中の観光関係者・学生らと繋がる機会を提供しています。

■ PATA 本部@タイ・バンコクでのインターンシップ 参加者募集中！



和歌山大学は、PATA（Pacific Asia Travel Association: 太平洋アジア観光協会）のメンバーです。

観光を学ぶ世界中の学生に向け、PATAでは約3ヶ月間のインターンシップ参加者を募集しており、和歌山大学観光学部生も応募が可能です。

タイ・バンコクのPATAオフィスで、実践的な取り組みや業務のサポートを行える本インターンシップへの参加を随時募集していますので、詳細は観光実践教育サポートオフィス（担当：柴本）までお問い合わせください。

- ✓20歳以上で、3ヶ月間バンコクでインターンシップに参加出来る学生。
- ✓仕事をするにあたって、十分な英語能力を有する学生。
- ✓熱心、勤勉かつ、やる気のある学生。

編集・発行

(2018年 4月発行)

和歌山大学 観光学部 観光実践教育サポートオフィス

和歌山大学 国際観光学研究センター

〒640-8510
和歌山市栄谷 930 和歌山大学西 4 号館 K216 室、K116 室
TEL/FAX 073-457-8553

〒640-8510
和歌山市栄谷 930 和歌山大学西 1 号館 1 階
TEL 073-457-7875

E-mail tourism-er@center.wakayama-u.ac.jp

E-mail info-ctr@center.wakayama-u.ac.jp

URL <http://www.wakayama-u.ac.jp/tourism/>

URL <http://www.wakayama-u.ac.jp/ctr/>